

第209回 都市懇サロ ンレポ ート	「～エネルギー（電力・熱）活用の応用～ コージェネレーションが実現する強く活力のあるまちづくり」		
講 師	一般財団法人 コージェネレーション・ エネルギー高度利用センター 普及促進部 担当部長 古後康之 氏	開催日	平成29年3月7日(火) 18:00～20:00
講 師 プロフィール	1987年 東京ガス(株)に入社 産業用(工場)向けのコージェネレーション 提案営業に17年間携わる。その後、家庭用コ ージェネレーションであるエコウィル並びに エネファーム事業の立ち上げに携わる。  2016年 4月より現職		
お話の概要  (意見交換の内 容を合わせて 記載)	<b>■講義の概要</b>		
	<p>東日本大震災を機に、日頃私たちが当たり前のように使っているエネルギー（電力・熱）を取り巻く環境も大きく変化した。国策としてその普及が期待されているコージェネレーション（自家発電、熱電併給システム）がまちづくりにおいてどのように役立てるか及び全国の自治体のコージェネレーションの事例について紹介した。</p> <p><b>(1) コージェネレーション（以下 コージェネ）の特徴</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・需要地で、1つのエネルギーから2つ以上（電気エネルギー、熱エネルギー等）のエネルギーを効率的に取り出す。 ⇒総合率が上がり、省エネルギーへ</li> <li>・電力のピーク時間帯にコージェネを稼働し、受電電力を低減させ、排熱を空調に活用した場合、空調用電力の低減も可能となり二重の節電となる。 ⇒電力ピークカット効果</li> <li>・災害・停電等においても、分電型電源であるコージェネを常用防災兼用発電機として運用することでエネルギーセキュリティが向上する。 ⇒停電時などの防災対応が可能</li> </ul> <p><b>(2) コージェネレーションによるまちづくりへの課題解決</b></p> <p>①まちの街区単位による省エネ・省CO<sub>2</sub>対策 ⇒コージェネにより都市機能が集約化されると、「エネルギー需要の集約」「エネルギーセンターの一元化」「街区単位のため施設が隣接しているので電気や熱の近隣供給」が容易 →街区内の施設全体でエネルギーの効率的な利用を図ることが可能</p> <p>②停電時のエネルギーセキュリティ向上等による防災対策 ⇒熱量が供給されるコージェネにより必要最低限の電力・熱を各拠点（施設）に継続供給 →街区全体での防災機能の強化が可能</p> <p>③地域活性化対策 ⇒エネルギーの地産地消と光熱費削減、雇用の確保、防災対策による強靱で安心なまちの経済効果による不動産価値の向上 →さらに住みやすいまちづくりが可能</p> <p>今後・・・</p> <p>・立地適正化計画やまちづくり計画・都市マスタープランなどにおいて、長期間消費するエネルギーに対する対策・考慮が重要な要素のひとつである。</p> <p><b>(3) コージェネレーション導入事例</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①長岡市「アオーレ長岡」：市役所を含んだ防災拠点複合施設</li> <li>②新発田市「ヨリネスしばた」：災害時に対策本部として機能が可能な防災対策型市役所</li> <li>③横浜市「異業種2工場間のエネルギー連携」：異業種工場間において蒸気を融通することにより省エネ・省CO<sub>2</sub>削減の実現</li> </ol>		
記 録 者 の ひ と こ と	いつ起きてもおかしくない首都圏での災害に、「家族」「建物」という単位を超えた「街区」強いては「まち」単位での防災対策を迅速に進めてほしいと思いました。 <<都市懇サロン運営部会委員 大橋>>		